



第64回

低速台風10号、九州都市部まひ

※2024年8月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

鹿児島県に上陸後、丸1日以上かけて九州を斜めに進んだ台風10号は8月30日昼前、大分県から瀬戸内海に抜けた。進行が遅い「ノロノロ台風」の雨や風による影響は長時間に及び、九州の大動脈の九州新幹線は2日間にわたって運休したものの、商業施設が軒並み休業するなど都市機能はまひし、市民生活に影響が広がった。

「出勤しなければならぬが、JRが動かない」。30日午前、福岡市博多区のJR博多駅で同区の会社員、小林虎太郎さん(26)は困惑した表情を見せた。駅を発着する新幹線や特急を含む在来線は、29日の始発から運転を休止し、30日も始発から終日運休。「運休の情報は見ていたが、天気もひどくなったので午後からは再開すると思ったのに……」と途方に暮れた。

海外から飛行機で福岡空港に到着し、鹿児島市の自宅に戻れずに足止めされていた60代男性は「山陽新幹線が動かないので、ホテルを取った。長い移動で疲れた」とこぼした。駅構内では行く当てもなくなたたずんでいる外国人旅行者たちの姿も多く見られた。福岡市中心部の商業施設も店を閉め、天神地下街の人通りもまばらだった。29、30の両日休業した百貨店の担当者「3日間の休業の影響は大きい。インバウンド(訪日客)需要が好調で、月末の目標に向けて順調な売り上げだっただけに残念だ」と肩を落とす。

◇積乱雲の列から竜巻

台風11号の接近に伴い、宮崎市では竜巻とみられる突風で大きな被害が出た。竜巻のメカニズムに詳しい防衛大学の小林文明教授(気象学)は「日

本では竜巻は4分の1が台風に伴って発生する。台風の中心からかなり離れた場所でも注意が必要だ」と協調する。小林教授によると、竜巻は台風に向かって吹き込む湿った空気で形成される積乱雲の列である「台風の腕」で発生することが多い。

台風の腕は中心から2000〜6000^{キロ}ほどの位置に存在し、10000^{キロ}近く離れていることもある。積乱雲が数十、数百と烈をなし、どの雲も竜巻を起こす潜在能力があるため、狭い範囲で短い時間に複数の竜巻が生じることも珍しくはない。山や丘などの障害物がない平らな土地で被害が拡大しやすいという。

宮崎平野は台風に伴う竜巻が発生しやすい場所で、2006年に3人が亡くなった竜巻が起きた宮崎県延岡市では、ほぼ同じ場所で数年後にも竜巻があり、今回被害が出た宮崎市佐土原町でも16年に竜巻が起きているという。

9月は台風シーズンであるとともに、竜巻シーズンでもある。近年は気候変動などの影響で台風の勢力が増

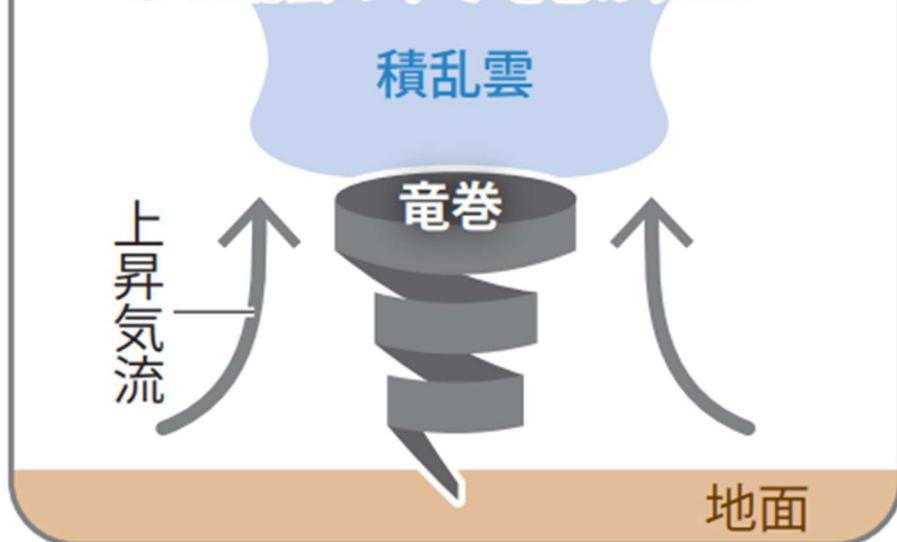
しており、竜巻を生む力も強まっている。風速が弱い台風でも竜巻を発生させる能力があり、台風本体が来る半日〜1日前に注意が必要だ。小林教授は「竜巻のメカニズムは大体分かっているが、台風そのものが嵐で、そこに組み込まれている竜巻を予測するのは難しいのが現状だ。台風に備えるのと同時に竜巻も起こりうるということとを頭に入れる必要がある」と訴える。

台風による竜巻発生仕組み

① 積乱雲の列ができる (台風の腕)



② 積乱雲の下で竜巻が発生



※小林文明教授への取材による